

概要版

第2次【2018-2027】

# 安曇野市環境基本計画

(2023改定版)





## 環境基本計画とは

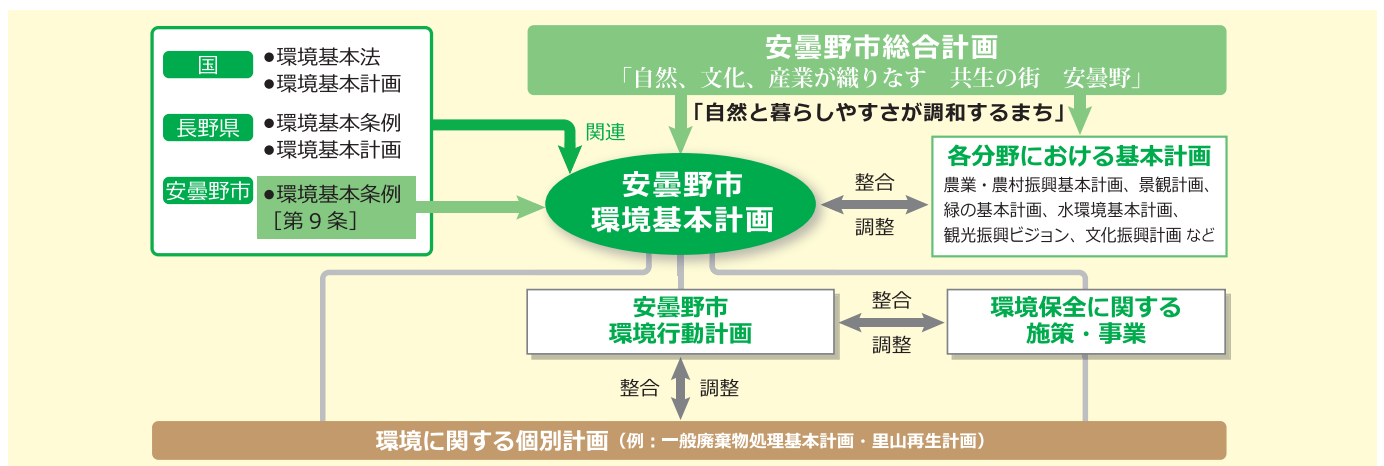
本計画は、「安曇野市環境基本条例（2005（平成 17）年制定）」を踏まえて制定された「安曇野市環境宣言（2008（平成 20）年制定）」を基本理念に、市内の環境をより良くしていくために、市民・事業者・滞在者・市がそれぞれどのようなことに取り組むべきかについて、具体的に示したものです。

安曇野市の最上位計画である「第2次安曇野市総合計画」に掲げる安曇野市の将来像の実現を目指して、環境に関する個別計画と連携を図りながら環境面から取り組みを推進する役割を担っています。

### 「安曇野市環境宣言」とは

経済優先の価値観を見直し、より良い安曇野の環境を未来へ引き継ぐことを目的として制定されており、以下の4つの行動を実践することを宣言しています。

- 豊かな自然と農業を育み、人と自然が共存・共生する社会を目指します。
- 水と空気を守り、快適で安全・安心な暮らしを目指します。
- 身近な暮らしと社会を見つめ直し、資源やエネルギーを大切にされた循環型社会を築きます。
- 環境学習や環境保全のための地域活動を実践し、豊かな地域環境を次世代に引き継ぎます。



## 改定の概要

計画の期間は、2018（平成 30）年度～2027（令和 9）年度までの10年間としています。5年目の中間年次となる2022（令和 4）年度に、施策の達成状況について中間評価を行うとともに、環境問題に対する世界的な意識の高まりを踏まえて、環境指標や取り組み内容の見直しを行いました。

また、2022（令和 4）年度末までを計画期間としていた「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の第2次計画を本計画の第5章として位置づけ、地球温暖化の対策にもより積極的に取り組むこととしています。

### 第2次環境基本計画（2018-2027）

「自然環境を大切にするまち」の実現を目指して取り組みを推進

### 地球温暖化対策実行計画（2012-2022<sup>※</sup>）

2020年度までに温室効果ガスを2008年度比25%以上の削減を目標に取り組みを推進

見直し  
策定

2023年3月

### 第2次安曇野市環境基本計画 改定

「自然と暮らしやすさが調和するまち」の実現を目指して取り組みを推進



2050年度に温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指した取り組みを推進

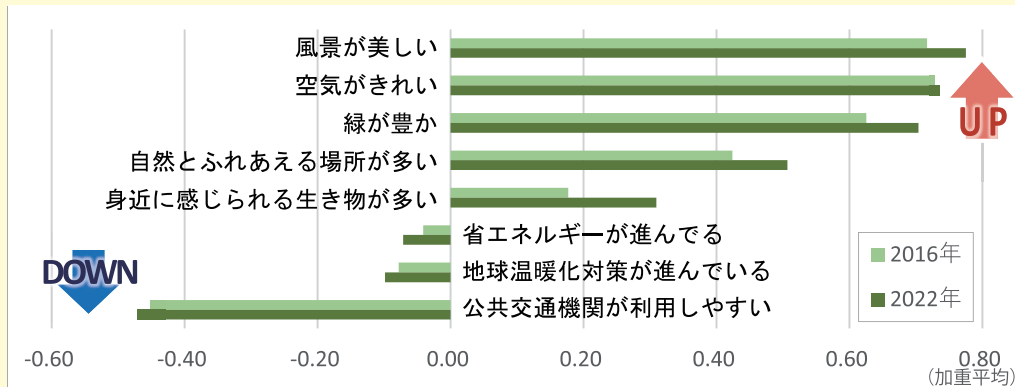
※2020年度から2年延長

市内では、本計画で掲げた4つの基本目標の達成に向けて、さまざまな取り組みを進めてきました。

その結果、本計画策定時より、環境に対する満足度が向上したほか、農林業などに関する取り組みや、市民の環境活動への参加状況が目標値を上回っています。一方、目標値に達していない項目も複数みられるため、今後も積極的に取り組みを進めていきます（結果の詳細は、本編第1章第3節p.4～12をご参照ください）。

### 【市民アンケート結果】

環境に関する20項目に対し、現在の満足度について5段階で評価



■加重平均の算出方法  
5段階評価の結果について以下のように点数を割り振って算出。  
「満足：1点」、「やや満足：0.5点」、「どちらともいえない」、「やや不満：-0.5点」、「不満：-1点」

●市内の環境に対する満足度は、2016年度の市民アンケート調査結果よりも平均値が上昇しました。

●景観や自然との関わりに関する満足度が向上している一方、地球温暖化対策に関する満足度は低下しています。

環境に対する満足度

基本目標1  
共存・共生をはかるべきもの

#### 【目標を達成している主な項目】

- ・安曇野材の年間利用実績（目標 220m<sup>3</sup>/年）  
150m<sup>3</sup>/年（2016年度）▶249m<sup>3</sup>/年（2021年度）
- ・認定農業者数（目標 270 経営体）  
267 経営体（2016年度）▶295 経営体（2021年度）

#### 【目標を下回った主な項目】

- ・里山学校の年間受講者数（目標 150 人/年）  
105 人/年（2016年度）▶104 人/年（2021年度）
- ・特定外来種駆除活動の参加者数（目標 8,000 人/年）  
7,790 人/年（2016年度）▶4,607 人/年（2021年度）
- ・1人あたりの国営・県営除く公園面積（目標 9.2m<sup>2</sup>/人）  
7.9m<sup>2</sup>/人（2016年度）▶8.2m<sup>2</sup>/人（2021年度）

●複数の項目は新型コロナウイルスの影響を受けて目標の達成に至っていませんが今後改善予定です。

基本目標2  
安全・安心な暮らしを支えるもの

#### 【目標を達成している項目】

- ・自動車交通騒音測定値の基準値超過地点数（目標 0 地点）  
1 地点（2016年度）▶0 地点（2021年度）
- ・公害等への苦情件数（目標 220 件/年）  
265 件/年（2016年度）▶206 件/年（2021年度）

#### 【目標を下回った項目】

- ・上水道普及率（目標 100%）  
99%（2016年度）▶99%（2021年度）
- ・水洗化率（目標 88.9%）  
81.9%（2016年度）▶87.0%（2021年度）
- ・人為的な地下水涵養量（目標 180 万 m<sup>3</sup>/年）  
112.8 万 m<sup>3</sup>/年（2016年度）▶132.2 万 m<sup>3</sup>/年（2021年度）

●一部の項目は、人口減少や少子高齢化の影響により取り組みが停滞しています。

基本目標3  
循環型・低炭素社会をつくるもの

#### 【目標を達成している項目】

- ・資源物排出量の削減（目標 3,142 t/年）  
3,354t/年（2016年度）▶2,048t/年（2021年度）
- ・安曇野地域の温室効果ガス排出量（目標 66.9 万 t-CO<sub>2</sub>/年）  
71.3 万 t-CO<sub>2</sub>/年（2016年度）▶65.8 万 t-CO<sub>2</sub>/年（2019年度）

#### 【目標を下回った項目】

- ・事業系可燃ごみ排出量の削減（目標 7,451 t/年）  
10,859t/年（2016年度）▶11,574t/年（2021年度）
- ・市民1日1人あたりのごみ排出量（目標 736g/人・日）  
787g/人・日（2016年度）▶811g/人・日（2021年度）
- ・デマンド交通「あづみん」の利用者数（目標 88,000 人/年）  
85,365 人/年（2016年度）▶78,975 人/年（2021年度）

●目標設定以降、悪化傾向の項目もあるため、体系の見直し等も含め、目標の達成を目指します。

基本目標4  
参加と協働

#### 【目標を達成している項目】

- ・信州型自然保育を受ける児童の割合（目標 54.0%/年）  
52.0%/年（2016年度）▶58.5%/年（2021年度）
- ・環境美化活動団体数（目標 277 団体/年）  
217 団体/年（2016年度）▶411 団体/年（2021年度）
- ・環境美化活動参加者数（目標 36,000 人/年）  
34,187 人/年（2016年度）▶42,745 人/年（2021年度）

#### 【目標を下回った主な項目】

- ・安曇野エコプラン .net アクセス数（目標 3,500 件/年）  
未集計（2016年度）▶3,406 件/年（2021年度）
- ・安曇野市民ネットワークによる環境学習プログラム提供数（目標 30 件/年）  
24 件/年（2016年度）▶21 件/年（2021年度）

●市民の協力を得ながら、今後も積極的な取り組みを推進します。

# 3 改定にともなう変更点等



本計画の改定にあたり、安曇野市総合計画の後期基本計画に合わせて、「自然と暮らしやすさが調和するまち」をスローガンに、近年の社会情勢や本計画策定以降の市内における取り組み状況を踏まえ、第5章に「第2次地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を追加するとともに、第3章の環境指標（数値目標）の見直し及び2027年度の目標値を設定しました。また、それを受けて第4章の取り組み内容の一部を変更しました。

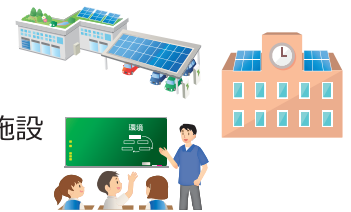
なお、本計画の取り組みを進めることにより、2030（令和12）年度までの国際社会共通の目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成も目指しています。

## 主な変更点①：第3章 環境指標の更新

既に調査が終了している項目や、体制の変更等により情報の取得が難しくなった項目を除外した一方、地球温暖化に対応する項目や環境教育についての項目を追加しました。

### 【新たに追加した環境指標（2021年度 現状値 ▶ 2027年度 目標値）

- 太陽光発電施設の導入件数：4,699件 ▶▶ 6,000件
- 市施設における再生可能エネルギー設備設置施設数：28施設 ▶▶ 60施設
- 教育機関における環境学習に係る出前講座の回数：0回 ▶▶ 10回



## 主な変更点②：第5章 第2次地球温暖化対策実行計画の追加

第2次地球温暖化対策実行計画では、2050年ゼロカーボン\*の達成に向けて、まずは、2030年度までに市内の温室効果ガス（CO<sub>2</sub>）の排出量を2013年度比50%の削減を目標に、以下の取り組みを進めます。

- ▶ 自然資源を活用したエネルギーの自給自足化
- ▶ 省エネルギー対策への取り組み強化と意識向上に向けた普及啓発
- ▶ 脱炭素に向けた交通手段の転換とごみを出さない暮らし
- ▶ 温室効果ガス吸収量向上を目指した森林・農地・水辺環境の整備と保全

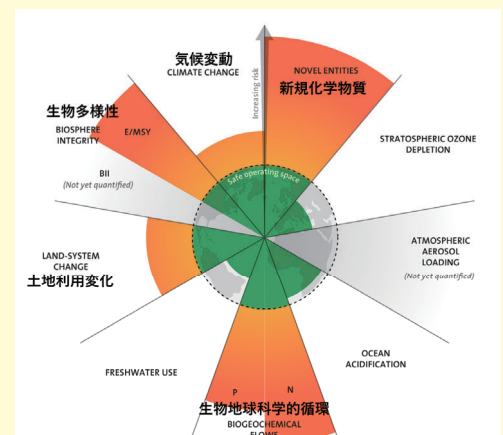
\*ゼロカーボン：温室効果ガスについて、人間生活の中での排出量と、森林や土壌の管理による吸収量がプラスマイナスゼロになること

### ■（参考）近年の社会情勢：持続可能な社会への取り組み

人間活動が地球環境に及ぼす影響を9つの側面から科学的に評価し「地球の限界」を示したプラネタリー・バウンダリー\*によると、生物地球科学的循環（窒素やリンの循環）・生物多様性（絶滅速度）・土地利用変化・気候変動の4項目は、すでに限界値を超えていると分析されています。また、2022（令和4）年1月に発表された最新情報では、環境汚染物質やプラスチックなどの「新規化学物質」も限界値を超えたとの見解が示されています。

この概念は、SDGsが示されている「持続可能な開発のための2030アジェンダ（国連持続可能な開発サミットの成果文書）」や「パリ協定」の科学的な基礎にもなっており、「持続可能な社会」に向けた取り組みが急速に広がっています。

\*プラネタリー・バウンダリー：ストックホルム・レジリエンス・センター所長ロクストロームらにより開発された概念。地球の環境容量を代表する9つの側面から、人類が生存できる限界（臨界点）を科学的に評価する方法のこと。



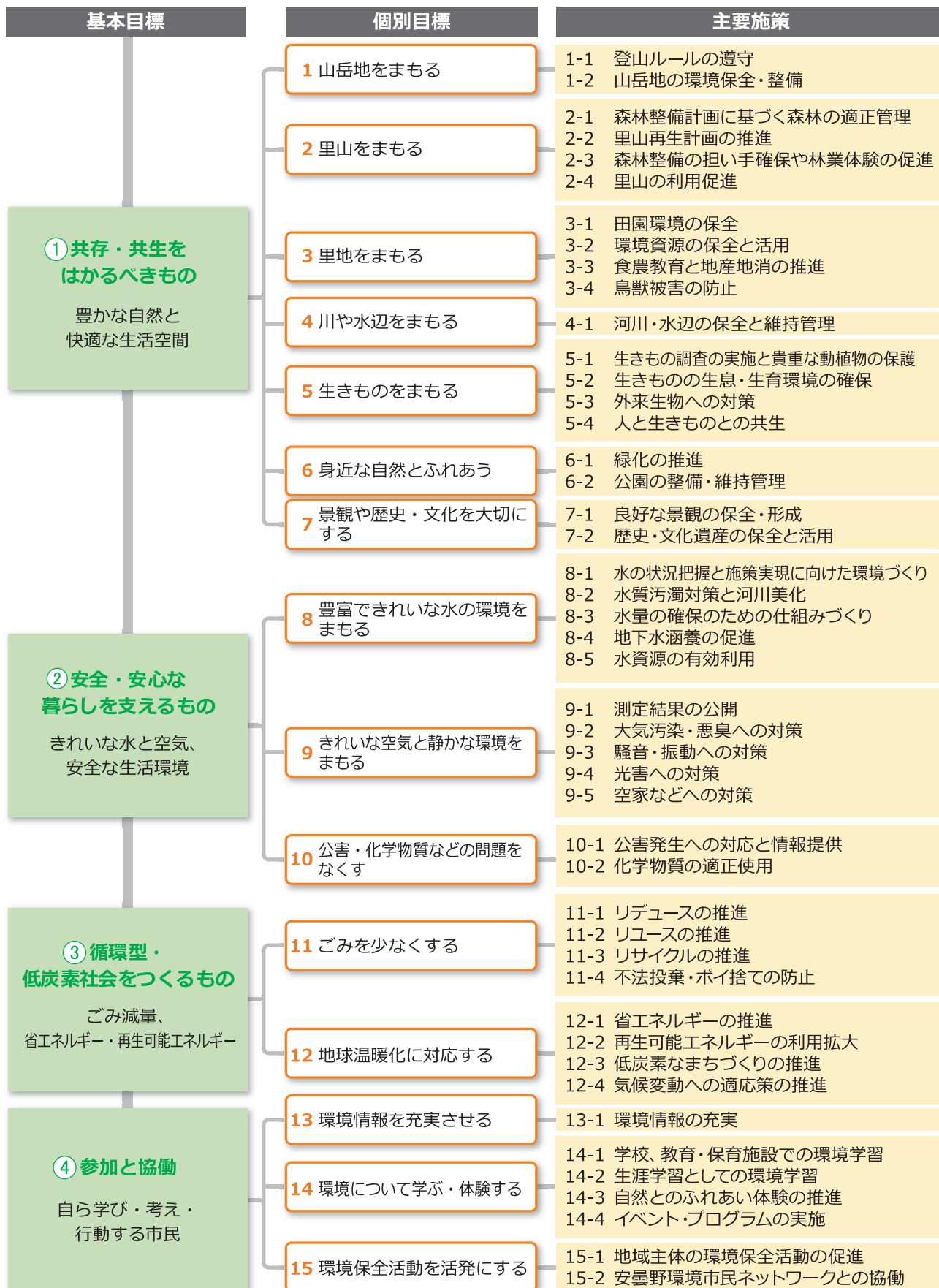
プラネタリー・バウンダリー（2022）

【資料：Image via Designed by Azote for Stockholm Resilience Centre, based on analysis in Persson et al 2022 and Steffen et al 2015（一部改変）】

# 4

## 計画の体系

4つの基本目標に基づき、15の個別目標と46の主要施策を掲げ、取り組みを進めます。





本計画推進の柱となる基本目標ごとの取り組みの方向性および市民・事業者・滞在者・市の具体的な取り組みについて、その一部をご紹介します。

## 基本目標 1 共存・共生をはかるべきもの



### 豊かな自然と快適な生活空間

「豊かな自然」を維持・創出していくためには、自然の仕組みの微妙なバランスや自然に対して起きていることを知り、共存・共生を図っていくことが必要です。

また、「快適な生活空間」確保の観点からさまざまな人々が共に生活できる空間づくりや山や水辺といった安曇野らしい自然の景観を生かし、生活空間に取り入れていきます。

#### 個別目標

- 1 山岳地をまもる
- 2 里山をまもる
- 3 里地をまもる
- 4 川や水辺をまもる
- 5 生きものをまもる
- 6 身近な自然とふれあう
- 7 景観や歴史・文化を大切にす

#### 市の取り組み

- ・ 薪の地産地消率向上を推進する。
- ・ 農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。

#### 私たち（市民・事業者・滞在者）が取り組めること



動植物の違法採取や採集などをしない



安曇野市の農林水産物を積極的に利用する



農薬・除草剤、化学肥料の使用を減らす



道路や公園などの緑化に協力する

## 基本目標 2 安全・安心な暮らしを支えるもの



### きれいな水と空気、安全な生活環境

きれいな水と空気を守るために、まずはしっかりと現状を把握することが必要です。

また、化学物質などによる、健康または生活環境に係る被害についても、情報収集を進めながら同様に現状を把握し、快適で安全・安心な暮らしを目指していきます。

#### 個別目標

- 8 豊富できれいな水の環境をまもる
- 9 きれいな空気と静かな環境をまもる
- 10 公害・化学物質などの問題をなくす

#### 市の取り組み

- ・ 地下水涵養などの取り組みを継続的なものとするための支援体制の構築を行う。
- ・ 管理不十分な空家などへの指導をする。
- ・ 公害について情報提供する。
- ・ 有害化学物質などの保管・管理と取り扱いについて注意喚起する。

#### 私たち（市民・事業者・滞在者）が取り組めること



節水を心がける



許可されていない野焼きは行わない



騒音や排気ガスなどに配慮し、低速で運転する



油や農薬を下水や河川に流さない



なお、各基本目標のタイトル右側には、関連するSDGsについて掲載しています。

## 基本目標 3 循環型・低炭素社会をつくるもの



### ごみ減量、省エネルギー・再生可能エネルギー

地球環境への負荷を減らすためには、循環型社会を地域で実現していくことが重要です。そのためには、ごみをできる限り減らし再び利用すること、省エネルギー行動を実践すること、地域内で生産する再生可能エネルギーの導入促進などについて取り組んでいきます。

#### 個別目標

- 11 ごみを少なくする
- 12 地球温暖化に対応する

#### 市の取り組み

- ・広報などで分別の徹底を啓発する。
- ・地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。
- ・住宅等建物への太陽光発電（PPA事業を含む）の取り組みを進める。
- ・デマンド交通「あづみん」「定時定路線」の運行を行う。

#### 私たち（市民・事業者・滞在者）が取り組めること



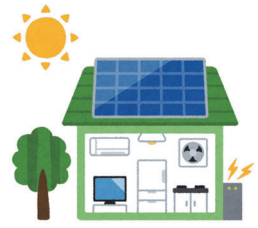
きちんと分別する



省エネを心掛ける



公共交通機関や自転車を  
利用する



再生可能エネルギー設備  
の導入を進める

## 基本目標 4 参加と協働



### 自ら学び・考え・行動する市民

市内の環境をより良い方向へ導くためには、未来を担う子どもたちへの環境教育の充実はもちろんですが、世代を超えて環境について学ぶことが重要です。市民一人ひとりが環境の保全と創造に主体的に取り組むとともに、環境問題の解決に向けて地域内での連携や市民・事業者・市の協働を図っていきます。

#### 個別目標

- 13 環境情報を充実させる
- 14 環境について学ぶ・体験する
- 15 環境保全活動を活発にする

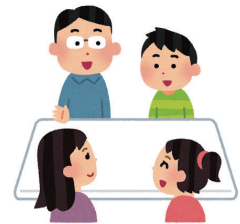
#### 市の取り組み

- ・小中学校などにおける環境教育を推進する。
- ・地域活動（隣組・区・地区・地域公民館・自治会組織など）の場などで環境学習を開催し、出張啓発を行う。

#### 私たち（市民・事業者・滞在者）が取り組めること



環境に関する情報を収集し、活用する



環境について話題にする



環境学習・野外活動に参加・協力する



自然と触れ合う機会を増やす

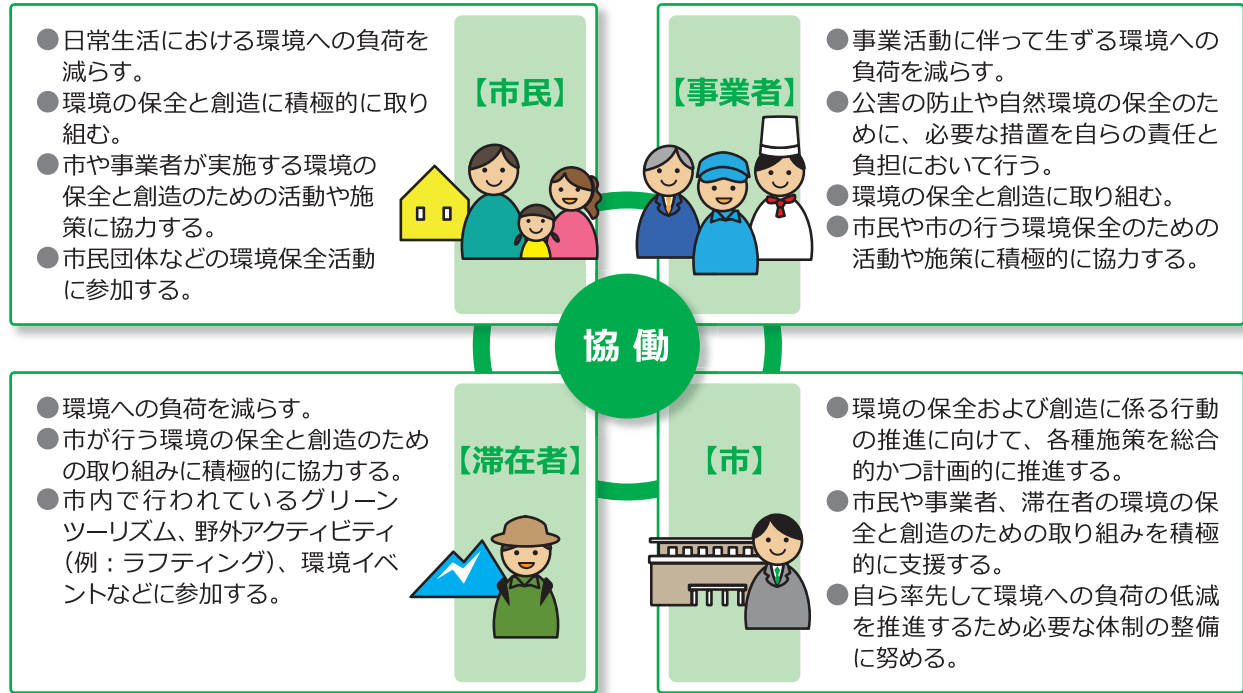
# 6

## 計画の進め方



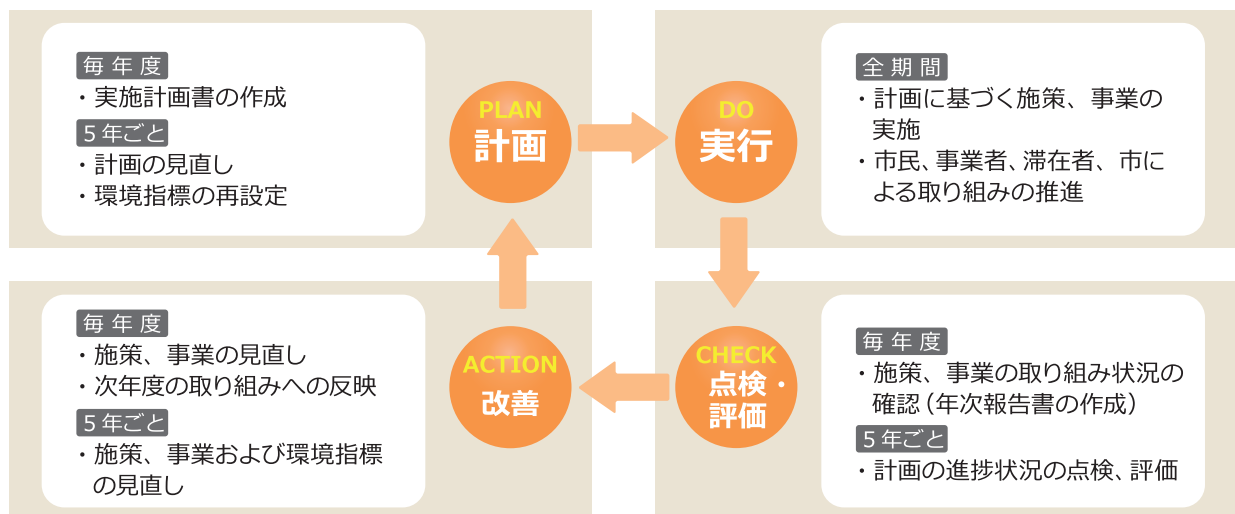
### 計画に取り組む主体(市民・事業者・滞在者・市)の役割

各主体がそれぞれの立場で、安曇野市環境基本条例に規定された役割を担うとともに、互いに連携し、一体となって本計画の目標の達成に向けて「協働」していくことが必要です。



### 計画を進めるための仕組み

計画を効果的に運用していくために、計画 (PLAN)、実行 (DO)、点検・評価 (CHECK)、見直し (ACTION) のPDCAサイクルに従って実施します。



## 第2次【2018-2027】

## 安曇野市環境基本計画 概要版 (2023改定版) 2023年3月

安曇野市市民生活部環境課

TEL : 0263-71-2492 FAX : 0263-72-3176

E-Mail : kankyuu@city.azumino.nagano.jp